



# 中国西南地方における歴史文化村鎮保護の展開と保護計画の特徴：国家級歴史文化名鎮・李庄鎮（四川省宜賓市）を例に

馮, 旭  
山崎, 寿一

---

(Citation)

日本建築学会計画系論文集, 78(694):2513-2520

(Issue Date)

2013-12

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90003060>



## 中国西南地方における歴史文化村鎮保護の展開と保護計画の特徴

－国家級歴史文化名鎮・李庄鎮（四川省宜賓市）を例に－

STUDY ON CONSERVATION DEVELOPMENT AND  
CONSERVATION PLANNING CHARACTERISTIC OF HISTORIC TOWN (VILLAGE)  
IN SOUTHWEST OF P.R. CHINA

－ Take Lizhuang town, Yibin city in Sichuan province for example －

馮 旭\*, 山崎 寿一\*\*

Xu FENG and Juichi YAMAZAKI

This is the second article of the series study named *Formulation Method of Conservation Planning on Historic Town (Village) in Southwest of P.R.China*. In the first article, from aspects of policy, main method, and primary research, the transition of Chinese historic heritage which focuses on Plain Protection after 1980 is reorganized. And model conservation planning cases are analyzed to explain the specific protection approach of three protection systems. In this article, taking Lizhuang Town in Yibin City for example, conservation development related to three protection systems is explored. Then method and contents in conservation planning formulation and situation of implementation process are analyzed.

**Keywords:** *Historic Town (Village), Conservation Development, Conservation Planning, Implementation Process, Lizhuang Town*

歴史文化名鎮名村, 保護事業の展開, 保護計画, 保護整備, 李庄鎮

## 1. 研究の目的と方法

## 1. 1 研究概要と目的

本稿は、中国における歴史文化村鎮の保護制度に関する研究の第二報である。

歴史文化村鎮は、歴史文化名鎮名村（以下、名鎮名村と略す）とも呼ばれている。村鎮は中国の農村地域における基礎単位であり、歴史的文化的価値のある村鎮の保護は中国の農村地域における歴史的環境保護の基礎となるものといえる。また、中国での「保護」の用語は、「保存」と「保全」の意味を兼ねており、本研究でもその用語を用いている。

前稿<sup>1)</sup>では、1980年に策定された中国初の面的保護理念を用いた山西省平遥県保護計画の内容と意義を明らかにし、1982年に制定された文物保護法以降、歴史文化名鎮名村制度の確立に至る中国の歴史的環境を対象とする保護政策の発展を、歴史文化名城制度が確立する段階（1980—1985、以下、名城制度と略す）、歴史文化街区制度が確立する段階（1986—2002、以下、街区制度と略す）、歴史文化村鎮制度が確立する段階（2003—現在、以下、名鎮名村制度という）という3期に区分できることを示し、関連する先駆的モデル計画事例における保護技術の特徴を明らかにした。

本稿は、中国の歴史文化村鎮保護制度の具体的な適応事例として中国西南地方における国家級名鎮名村である四川省宜賓市李庄鎮を対象に、保護事業の展開過程を整理すると共に、現行の保護計画の策定手法とその特徴、整備事業の実態を明らかにすることを目的とする。

る。

## 1. 2 研究経緯と方法

中国では、2003年に歴史文化村鎮制度を制定したが、当初は歴史文化村鎮の保護手法及び保護計画の審査基準が整備されていなかった。そこでこの問題に対し、基準を作成し、歴史文化村鎮保護制度に運用させるために、2008年に中国政府は「中国歴史文化村鎮保護計画技術研究」課題（名鎮名村の保護計画の策定方法と技術に関する研究、課題番号：2008BAJ08B02、代表：華南理工大学、肖大威教授、2008）をスタートさせることになった。この課題では中国の国土を4つの地方に分け、主要4大学に委託し、研究を進めることになった。中国の西南地方<sup>2)</sup>は重慶大学周鉄軍研究室が担当することになり、2010年の共同調査に筆者らの所属する神戸大学山崎研究室も参加することになった。筆者らは、名鎮名村の特徴と価値を反映した空間構造を理解した上で、名鎮名村の独自の保護手法の獲得を研究目標に研究を進めることにした。この調査への参加を契機としながら、上記の独自の視点と関心から、西南地方の歴史文化村鎮（伝統的集落）の空間構造や文化財保護・郷土資料に関する独自の現地調査と関連資料の収集、担当者インタビューを行い、研究を進めることにした。

具体的には、2010年から2012年にかけて現地調査と保護事業の担当者へのヒアリング調査を行い、以下の手順で分析、考察を進めることにした。

①宜賓名城保護から李庄名鎮保護までの保護事業の展開過程を明ら

\* 神戸大学大学院 博士後期課程・修士(工学)

\*\* 神戸大学大学院工学研究科 教授・博士(工学)

Graduate School of Engineering, Kobe Univ., M. Eng.

Prof., Dept. of Architecture, Graduate School of Engineering, Kobe Univ., Dr. Eng.

かにするために、ここでは、宜賓市住建局から「宜賓歴史文化名城保護計画」（1994 年、以下 94 版宜賓名城保護計画と略す）<sup>2)</sup>、「宜賓歴史文化名城保護計画」（2004 年作成、2008 年改正・公表、以下 08 版宜賓名城保護計画と略す）<sup>3)</sup>を入手し、主要な保護事業の担当者である宜賓市住建局譚敏総計画士と農村処の陳茂処長、宜賓市翠屏区科技委員会の鄧利輝局長（元李庄鎮管理委員会副主任）へのヒアリング調査を行い、その分析から考察を進めた。また李庄鎮の銭鋒鎮長へのヒアリング調査を通じ、保護整備事業の実施状況と具体的な課題を把握する。また、鎮政府の係員、住民の現行の整備事業に対する意見も聴取した。

②李庄名鎮保護計画の考え方と策定手法、特徴を明らかにするために、ここでは、同済大学名城研究センターによって策定された「四川李庄歴史文化名鎮保護計画」の図面・説明書<sup>4)</sup>及び主要な設計者である于莉、黄宏智の報告書<sup>5)</sup>を収集・整理すると共に、当時の協同調査者である李庄鎮政府宣伝部の尹曉波主任へのヒアリング調査を行った。

### 1. 3 研究対象の概要（図 1、図 2 参照）

宜賓市は四川省の南東部、雲南省と貴州省との境界付近に位置し、面積は 13283km<sup>2</sup>、人口 540.64 万人である<sup>6)</sup>。宜賓市の伝統的区域（以下、宜賓古城と呼ぶ）は、図 1 に示すように金沙江と岷江の合流点で長江の起点に位置し、周辺の 3 つの山、3 つの川に囲まれ、独特の立地環境を持つ。長い歴史、かつ豊かな歴史文化資源を持っているため、1986 年に第 2 回の国家級名城に指定された。

李庄鎮の伝統的区域（以下、李庄古鎮と呼ぶ）は宜賓古城から東に 19km 離れた長江南岸に位置し、明代末期（17 世紀）の「湖広填四川」として知られる移民運動<sup>7)</sup>で形成された古鎮であり、面積が約 0.41km<sup>2</sup>、人口が約 8000 人である。

李庄古鎮の歴史文化資源については、まず 2 ヶ所の市級文物保護単位<sup>8)</sup>の禹王宮、天上宮がある。宜賓市政府によって歴史的文化的価値が認定され、市級文物保護単位に申請されているものを文物保護予定単位といい、現存する東岳廟、張家祠、玄武宮、桓侯宮、南華宮の 5 ヶ所存在している。更に、蓆子巷、正街といった 15 本の伝統的街道は李庄古鎮の全域に分布している。そこで行われていた市が地域の経済を支えていた。また、李庄古酒造、伝統的民家などの歴史的建物、水井などの遺跡が残っている。移民によって建てられ

たため、移民文化が李庄古鎮の重要な地域文化であると考えられる。

李庄鎮は宜賓名城保護の重要な地区となり、国家級名鎮に指定され独自に保護されている。名城・街区・名鎮名村の 3 つの制度と関連する点で中国西南地方の歴史的環境保護においては典型的事例であり、更に、街区の保護手法を参照するという現行の名鎮名村の保護手法の代表的な事例といえるため、研究対象として選択した。

李庄鎮の既往研究は、李庄名鎮保護計画に関する説明書<sup>4)</sup>があるが、保護事業の展開から、保護計画の策定手法、保護整備の実施までの分析・考察については、十分な研究が行われていない。更に、中国の地方都市・農村地域における村鎮レベルの歴史的環境の保護制度や保護計画の内容を具体的に明らかにした研究は、緒についた段階であり、十分な蓄積がないのが現状である。この点について、本稿の学術的価値であると考えている。

## 2. 李庄古鎮の保護事業の展開

李庄古鎮の保護事業の展開は、1986 年の宜賓市の国家級名城の指定から始まる。2011 年の古鎮整備事業の終了までの展開過程は、3 つの時期に大別でき、それぞれ名城制度、街区制度、名鎮名村制度と関連づけられる。各時期の背景、主要な保護事業の内容、保護手法の特徴を図 3 に示した。

### 2. 1 第 1 期 名城保護による歴史的価値の確認段階（1986 年－1995 年）

1982 年、文物保護法が制定され、中国の文化財保護体系が「点」から「面」へと広がった。それを象徴する名城制度が確立した。同年、第 1 回の国家級名城指定が行われ、全国で 24 都市が指定された。その中に、成都、遵義、昆明、大理という 4 つの西南地方に位置する都市が含まれた。1986 年 4 月に第 2 回の指定が行われ、歴史文化資源の保存状況、歴史的都市としての典型性・特殊性を主な基準として<sup>9)</sup>、各省から提出された 80 の候補都市から 38 都市が決定され、その中には宜賓市などの 6 つの西南地方の都市が含まれた。

その後、1992 年 3 月に、宜賓市政府が重慶建築大学（現在の重慶大学）都市計画設計研究院に依頼し、94 版宜賓名城保護計画の策定を行い、1994 年 5 月に四川省住建局的審査を受けて承認され、宜賓市都市計画（1997 年）<sup>8)</sup>にも反映された。

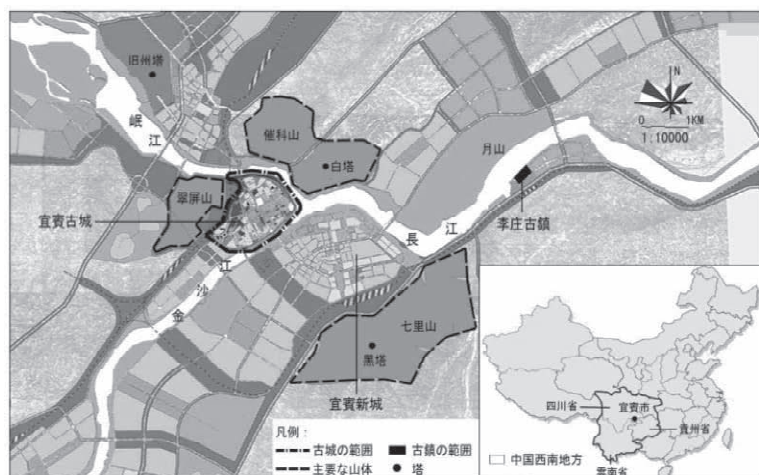


図 1 宜賓古城と李庄古鎮の立地

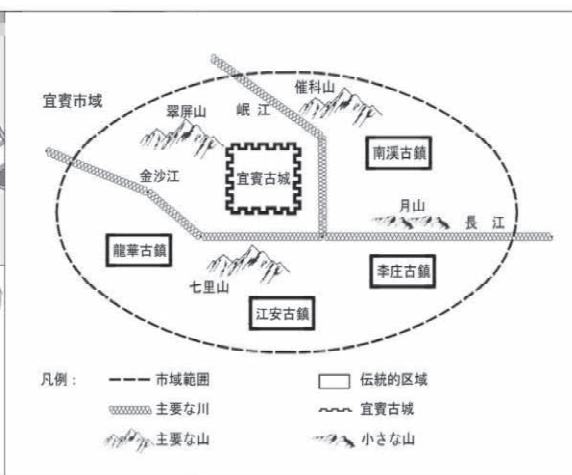


図 2 宜賓市空間モデル



94版宜賓名城保護計画の策定の際、名城保護の先駆的なモデル事例である平遥県保護計画が参照され、保護区域（宜賓古城）と開発区域（対岸に設置された宜賓新城）が明確に区分された。更に保護区域では個々の文化財や伝統的建造物を対象に保護することが主な手法であった。さらに、対岸に開発区域となる宜賓新城が建設され、保護区と明確に区分した。

もう1つの重要な成果として、市域範囲の文化財・歴史的環境の調査・確認が行われ、宜賓市の文化財リストが作成された。李庄鎮

はこの文化財リストに登録され、歴史的価値が認識され重視された。ただし、この時期に名城保護の重点は宜賓古城に集中していたため、李庄鎮の保護は実際に行われてはいなかった。

## 2. 2 第2期 街区保護による保護計画の策定段階（1996年—2004年）

1996年6月に住建部が主催した街区保護国際会議<sup>注5)</sup>で、街区制度の確立が確認された。これは名城保護の地区への具体的な導入を契機に制度化されたもので、安徽省黃山市屯溪老街の保護計画が手本となっている。ここでは、伝統的地域の保護事業と現代生活に合う整備・開発事業を両立するため、「核心保護区」、「建設制限区」、「環境調和区」という3つの保護範囲を画定することによって、それぞれ具体的な保護内容と措置が策定された。

街区制度と具体的な保護方法の確立に伴い、指定された名城の中の文化財、伝統的建造物を対象に個々の保護を実施することにより、街区を画定し、面的保護理念を用いて保護する方法へと変化した。

宜賓市住建局の譚敏総計画士によると、街区制度の確立後、宜賓名城の保護手法が再検討された。その際、宜賓古城のみならず、前段階の市域文化財リストに登録された李庄鎮、龍華鎮、江安鎮、南溪鎮の4つの伝統的區域も宜賓名城の街区にされ、それぞれの保護計画が策定され、08版宜賓名城保護計画の一部に含まれた。

それを背景に、2001年4月に宜賓市政府が同済大学国家歴史文化名城研究センターに依頼し、李庄鎮の街区保護計画の策定がスタートした。2004年8月に街区保護の手法を用いた保護計画の草案を完成させ、宜賓市住建局に提出した。この草案は李庄鎮を国家級名鎮名村に申請する重要な材料になった。

## 2. 3 第3期 名鎮の指定・保護整備の実施段階（2005年—2011年）

2003年に名鎮名村制度が設立され、面的保護対象は農村地域に拡大した。1回目の国家級名鎮名村（計22カ所）の指定は、西南地方にある重慶市の涪灘鎮、西沱鎮、双江鎮が含まれた。2005年の2回目の国家級名鎮名村（計58カ所）の指定は、李庄鎮などの14の西南地方にある村鎮が指定された。その際、名鎮名村の具体的な保護方法がないため、街区の保護方法を参照し保護計画を策定するのが一般的である<sup>注6)</sup>。それを背景に李庄名鎮保護計画が策定された。

その後、宜賓市政府と住建部からの保護資金を得て、李庄名鎮保護計画に基づいて、2005年11月から整備事業を実施し始めた。錢鋒鎮長によると、2006年11月の第4回四川省観光発展大会の前後に、保護整備を2005—2006年、2007—2010年の2期に分け、歴史文化資源の保存状況により、正街を境に、西側、東側で順次を実施した。

## 3. 李庄名鎮保護計画の策定手法と内容

### 3. 1 調査内容

2001年8月に同済大学の調査チームによって現地調査が行われた。調査の内容と手順は以下の通りである。

#### ①基礎情報の収集

まず、役場資料の収集及び保護担当者へのヒアリングによって、李庄鎮の地理的位置、自然条件(地形、水文、気候等)、人口と民族構成を主にした現状の情報、集落の形成と歴史的変遷を主にした歴史の情報、また、文化・風習などの情報を収集、整理する。

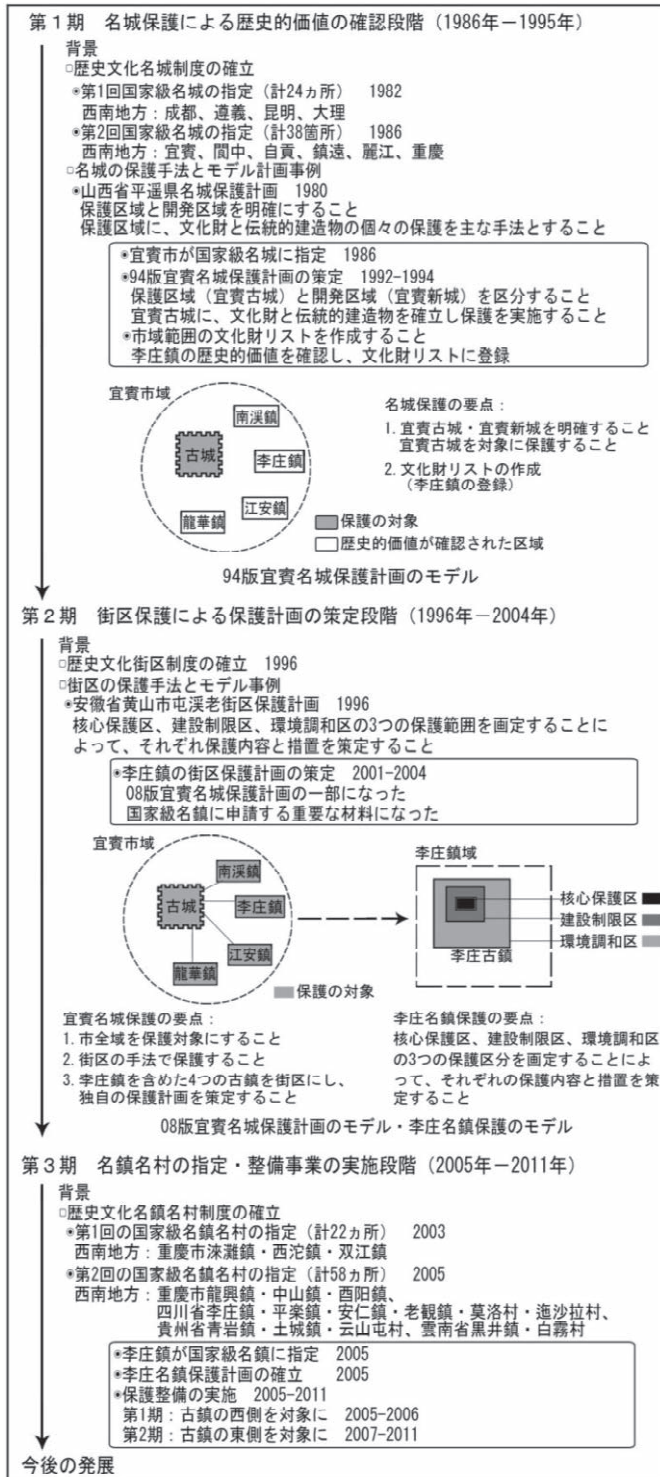


図3 李庄鎮の保護事業の展開

②集落の現状調査

次に、現地調査及び行政資料によって、集落の土地利用、歴史文化資源の分布、建物の現状（所有権、建造年代、高さ、民居の配置等）の図表が作成された。また、現代的建物、工業施設といった伝統的景観に合わない建造物の移転の可能性を検討する。

③歴史文化資源の調査

保護計画策定の重点調査項目である。現状調査で確立された歴史文化資源の分布図を用い、それぞれの要素に着目し調査が行われた。

まず、2ヵ所の文物保護単位（禹王宮、天上宮）、5ヵ所の文物保護予定単位（東岳廟、張家祠、玄武宮、桓侯宮、南華宮）、17ヵ所の重要な歴史的建物、6箇所（遺跡）に構成された文化財が調査、記録された。その際、それぞれの位置、建造時期、構造と外観などの特徴を詳細に記録し、更に建設過程、歴史的文化的価値を文献調査とヒアリング調査によって考察する。

次に、13本の伝統的街道を主とした歴史的環境についての調査が行われた。街路幅員、建造時期、地面舗装、街路両側の建物が調査された。

3. 2 李庄名鎮保護計画の策定方法と内容

(1) 保護範囲の指定

2005年に同済大学のチームが作成した李庄名鎮保護計画では、街区制度を参照し「核心保護区」「建設制限区」「環境調和区」を指定している（図4、図5）。それぞれの保護区の指定範囲について以下に述べる。

①核心保護区(0.09 km<sup>2</sup>)

文物保護単位、文物保護予定単位、重要な歴史的建物、伝統的街道が含まれる。

その中の文物保護単位については、建造物の敷地の範囲を「核心範囲」、この範囲から10-20m広げた区域を「建設制限範囲」として、文物保護単位の保護範囲を「建設制限範囲」に囲まれた部分としている。

文物保護予定単位、歴史的建物の保護範囲は、その建造物の敷地の範囲とする。

伝統的街道は、街道の幅員の幅を「核心範囲」とし、両側の建物を含めた範囲を保護範囲として指定する。

②建設制限区(0.14 km<sup>2</sup>)

核心保護区が一体的に繋がるようにするために核心保護区の周

辺に建設を制限する範囲を指定する。

③環境調和区(0.86km<sup>2</sup>)

古鎮の北側の水辺区域と対岸にある山地が含まれ、東・南・西三方に建設制限区から200-500m広げた範囲を指定する。

(2) 保護措置の策定

表1に3つの保護区分に適用する保護措置を示した。それぞれの歴史文化資源の保護及び新築・増築・改築・再建についての規定を主な内容とする。

①核心保護区：新築はできない。文物保護単位、文物保護予定単位、重要な歴史的建物、伝統的街道の撤去、破壊は禁止され、外観、周辺環境の改造も禁止される。

②建設制限区：新築は許可されるが、規模・材料・外観を厳しく制限される。改築・増築・再建の場合は、元の敷地内に押さえる。

また、伝統的景観に合わない建造物を徐々に取り壊し、大規模な解体と新築工事は禁止される。新築・改築・増築・再建の建造物の軒高は6.2m以下に制限される。

③環境調和区：水辺区域での新築が禁止され、他の区域の新築の場合、小規模とすることが推奨される。核心保護区、建設制限区からの景観を阻害しないよう新築の位置を確定することを原則とする。なお、新築・改築・増築・再建の軒高は9m以下に制限される。

(3) 具体的な保護・整備内容の策定（図6参照）

①核心保護区

文物保護単位、文物保護予定単位、重要な歴史的建造物、伝統的街道の保護・修繕・再利用の具体的な内容を決めている。

文物保護単位：2ヵ所の市級文物保護単位の禹王宮（A1）、天上宮（A2、写真1-①）が伝統的な姿・機能を回復するように修繕する。

文物保護予定単位：5ヵ所の文物保護予定単位が伝統的な姿に回復するように修繕し、観光・展示の機能を加えて再利用する。具体的には、東岳廟（B1）を観光サービスセンターへ、張家祠（B2）を李庄移民文化博物館へ、玄武宮（B3）を李庄人文歴史博物館へ、桓侯宮（B4）を観光事務へ、南華宮（B5）を李庄民俗文化博物館へと再利用する。

重要な歴史的建物：16箇所の伝統的民家（C1-C16、写真1-②）と李庄古酒造所（C17）に対し、政府によって買収・修繕され、地域的建物と伝統的産業の展示場へと再利用する。

伝統的街道：道の舗装を整備することと、両側の建物の外観を整

表1 李庄名鎮保護計画の保護区分の保護措置と保護・整備内容

保護区分	核心保護区	建設制限区	環境調和区
保護措置	<ul style="list-style-type: none"><li>・新築はできないこと</li><li>・文物保護単位、文物保護予定単位、歴史的建物、伝統的街道の撤去、破壊はできないこと、外観と周辺環境の改造は禁止されること</li><li>・文物保護単位は、文物保護法の規定に従って保護を行うこと<sup>注7)</sup></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新築はできるが、規模、材料、外観に対する制限があること</li><li>・改築、増築、再建の場合、元の敷地内で行うこと（敷地範囲は変えられない）</li><li>・伝統的景観に合わない建造物や施設は撤去すること</li><li>・大規模な工事は禁止すること</li><li>・新築、改築、増築、再建の場合、軒高は6.2m以下にする</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・水辺区域の新築は禁止されること</li><li>・新築の場合、小規模と推奨すること</li><li>・核心保護区、建設制限区からの景観を阻害しないよう建設すること</li><li>・新築、改築、増築、再建の場合、軒高は9.0m以下にする</li></ul>
保護・整備内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・文物保護単位の原状保護</li><li>・文物保護予定単位、重要な歴史的建物の保護、修繕、再利用</li><li>・伝統的街道の舗装の整備、両側の建物の外観の整備</li><li>・遺跡の保護</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・伝統的景観に合わない建造物や施設の撤去、住民の移転</li><li>・道の舗装の整備</li><li>・公共施設、観光施設の設置</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自然環境の整備</li><li>・観光開発予備用地の選択、整備</li><li>・公共施設、観光施設の設置</li><li>・周辺に繋がる車道の建設</li></ul>



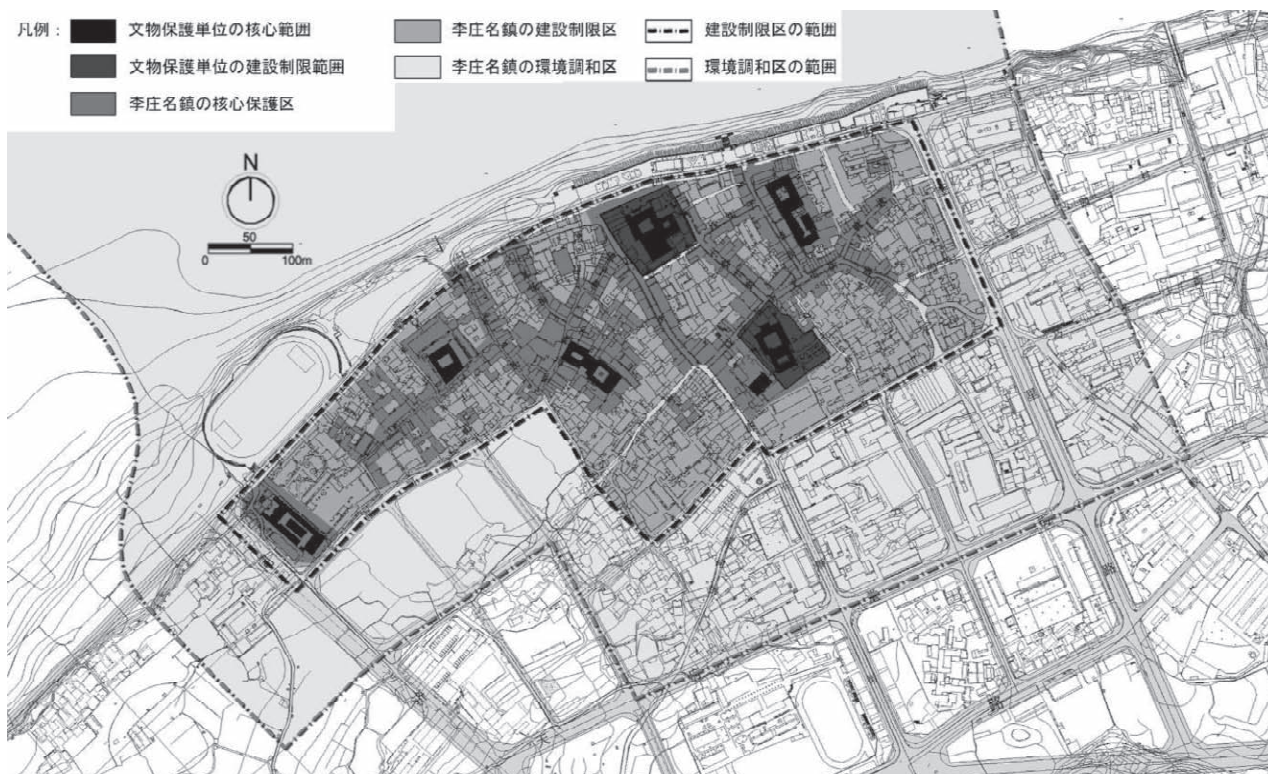


図4 李庄名鎮保護計画（出典：同済大学歴史文化名城センター、四川李庄歴史文化名鎮保護規劃、2005）

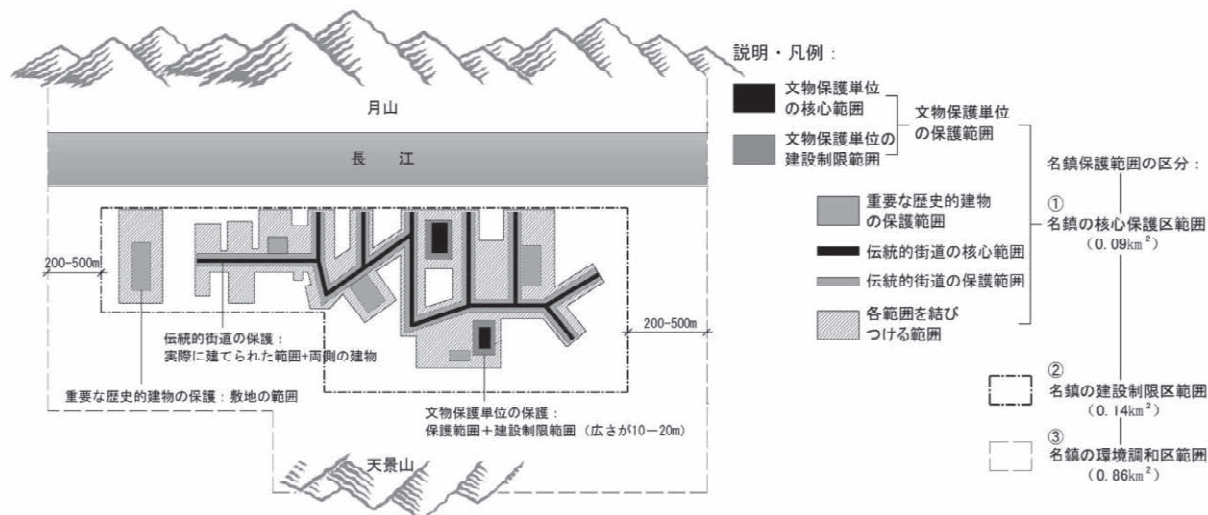


図5 李庄名鎮保護計画図の模式図（図4を元に、筆者が李莊鎮の空間構造をふまえて作成）

備することを主な内容とする。

遺跡：現存する老場街北端、西端の2つの門（写真1ー③）、老場街、蓆子巷、小春市街にある3つの古い階段、水井街にある双眼水井、という6カ所の遺跡を保護する。

②建設制限区：伝統的景観に合わない建造物や施設の撤去とそこで居住していた住民の移転、道の舗装の整備、公共施設・観光施設（旅館・民宿への改造、公衆トイレ・案内所等）の設置を内容とする。

③環境調和区：水辺区域、蓮の花の池といった自然環境の整備、観光開発予備用地の選択・整備、観光施設の設置（3つの入り口、駐車場の建設等）、公共施設（市場、行政、教育等）の設置、周辺に繋がる車道の建設を主な内容とする。

### 3. 3 他の保護計画の内容

保護範囲の画定、保護措置と保護・整備内容の策定を踏まえて、土地利用計画、高さ制限計画、観光施設計画、交通システム計画を作成し、計画図を策定している。

土地利用計画は核心保護区・建設制限区と環境調和区で異なる。核心保護区・建設制限区内では、文物保護単位、文物保護予定単位、重要な歴史的建物及びその敷地を保護用地と展示・観光用地に利用し、その他の部分を公共施設（学校・行政・医療）用地、歴史的建物の保護用地としている。環境調和区では、建設制限区と隣接する部分には公共施設用地（市場、行政、教育等）を設置し、他の部分を集合住宅の建設用地及び古鎮の発展予備用地に設置している。

高さ制限計画は、3つの保護区分に対する高さの制限要求に従って、それぞれの区域の高さを図面で示している。



② 整備前の伝統的街道と設計のイメージ図

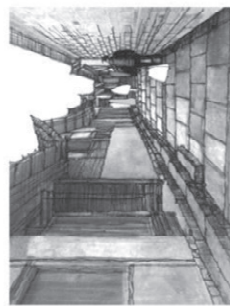
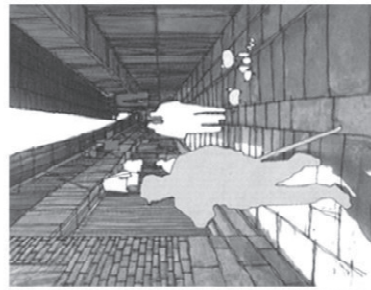


図6 李庄古镇の整備図 (ベースとなった地図の出典: 同濟大学歴史文化名城センター、四川李庄歴史文化名鎮保護規劃、2005)



①市級文物保護單位一天上宮



②重要な伝統民居



③集落の西端の門

写真1 保護対象



①伝統街道の整備 老場街（D4）



②重要な伝統建造物の整備 李庄古酒造所（C17）

写真2 整備前後の比較写真

観光計画は、現在の観光業の規模に着目し、観光業と関わる文物保護（予定）単位や歴史的建造物の位置と観光の利用方法を表し、観光ルート及び観光施設（駐車場、集落の観光用の入口等）を設置する。更に、将来の観光発展に着目し、観光予備用地、観光客ターミナルセンターを計画している。

交通システム計画では、建設制限区以内にある伝統的街道を商業用、観光用に位置づけている。更に、李庄古鎮から周辺の地域とへつづく車道の分布と幅員、駐車場の位置も定めている。

#### 4. 李庄古鎮保護整備の過程（図6、写真2参照）

##### 4. 1 第1期(2005—2006年)

第1期の整備事業は、歴史文化資源が最も豊かであり、保存状態も良い李庄古鎮の西側(正街から西の区域)で行われた。

文物保護単位、文物保護予定単位、重要な歴史的建物が、保護計画に位置づけられた機能と保護方法を踏まえ、史料、実測した図面、専門家の意見をもとに修繕・整備された。伝統的街道は、「舗装示意图」(道の舗装の整備図)に従って舗装の更新、整備を行い、両側の建物の外観は設計者による形式、色、材料の提案(図6-②)を参考し、具体的な保存状況によって整備を実施された。

また、道の拡幅、伝統的景観に合わない建造物の移転による居住面積の減少について、鎮政府が環境調和区の南側、天景山と古鎮の間に集合住宅を建てることによって解決した。

第1期の整備事業の資金は主に李庄鎮の観光業と工業の収入、及び宜賓市政府の補助金から得た。

##### 4. 2 第2期(2007—2010年)

第2期の整備事業は李庄古鎮の東側(正街から東の区域)で行われた。古鎮の西側より、東側は歴史文化資源が分散しており、工業施設、現代的建物といった伝統的景観に合わない建造物が多いため、時間がかかった。

文物保護単位、文物保護予定単位、重要な歴史的建物、伝統的街道の整備は第1期と同様の手法で保護計画に基づいて実施されたほか、交通システム計画に従って周辺の地域と繋がる車道の建設がこの時期の重要な内容になった。

更に、伝統的街道の衛生状況を維持するため、鎮政府が一部の伝統的街道で営まれた市の機能（主に食肉処理の店に構成された道）を環境調和区の南東側に設置された集中市場に移転させた。また、観光サービスを強化するため、交通システム計画で明確にした観光用の歩道での商売の内容を伝統飲食、お土産などの観光に向けた商品へと変更させた。

第2期の整備事業の資金は、住建部からの国家級名城の整備専門資金（約7800万円）と宜賓市政府の補助金を得て行った。

銭鋒鎮長によると、建設制限区における観光施設の補足、環境調和区における自然環境の整備、集合住宅の建設を目標とする第3期の整備事業を検討しており、市政府からの資金を調達でき次第、始めようとしている。

#### 5. まとめ

本稿は、四川省宜賓市李庄鎮を対象に、保護事業の展開過程、保護計画の策定手法、整備事業の実態を分析した。具体的に明らかになった点は以下の通りである。

##### ①李庄鎮の保護事業の展開

中国の面的保護制度の3つの発展段階に対応して、李庄鎮の保護事業の展開は3つの時期に大別でき、それぞれ以下の特徴を持つ。

第1期（1986年—1995年、歴史的価値の確認段階）：宜賓市が国家級名城に指定された後、宜賓古城に着目した94版宜賓名城保護計画が策定され、市全域の文化財の調査を行うことによって李庄古鎮の歴史的価値が認定された。

第2期（1996年—2004年、街区保護による保護計画の策定段階）：街区制度の確立と具体的な保護方法の公布を受け、宜賓名城の保護



方法が再検討された。宜賓古城の保護は文化財、伝統的建造物を対象に個々の保護を行う方法から、街区を画定し保護する方法へと変更され、更に李庄镇が含まれた宜賓古城の周辺にある4つの古鎮も街区としてそれぞれの街区保護計画が策定された。

第3期（2005年－2011年、名鎮の指定・保護整備の実施段階）：李庄镇が国家級名鎮に指定され、前段階に策定された街区の保護手法を用いた保護計画が審査を受け李庄名鎮保護計画となり、整備事業が行われた。

## ②李庄名鎮保護計画の策定手法とその特徴

李庄名鎮保護計画は、文物保護単位、文物保護予定単位、重要な歴史的建物、伝統的街道、遺跡による現存の歴史文化資源を把握し、それらを重点的に保護することが基本的な考え方である。つまり、保存状況のよい現存する歴史文化資源を保存することが保護計画の中心となっているという特徴がある。

具体的な策定手法は、歴史文化資源が集積して分布するエリアを核心保護区（文物保護単位、文物保護予定単位、重要な伝統的建造物、伝統的街道、遺跡から主に構成される）として、その周辺に建設制限区、さらに環境調和区を配置する3段階構成の保護区域を設定し、それぞれの保護区分に適用する保護内容と措置（整備事業）を策定するという手法を行われている。

このように策定された保護計画は、現存する歴史文化資源の保存を重点とした保護手法で、短期間で歴史的環境の破壊を大幅に減少させ、効果的な保護を実施できるとものと評価できる。

しかし、住民意向の把握、更に村鎮全体の空間構造に関する調査・分析が不十分なため、保護対象の形態、歴史、用途の理解に留まる傾向がある。その結果、場所の意味、場所と場所の関係、更に村鎮空間の形成過程や村鎮全体の空間構造に対する理解に及んでいない。

李庄古鎮の本来の価値及び地域的文化（移民文化）の影響を反映した古鎮の構成原理を尊重し、継承することが困難で、「伝統的空間の保護、地域的文化を反映した名鎮名村の特色の維持」という歴史文化村鎮の保護目標<sup>9)</sup>を達成しにくいと考えられる。

本研究では、李庄鎮の空間構造とその特徴について調査、その成果は別稿で報告<sup>注8)</sup>している。空間構造との関連から、現行の保護計画を評価し、新たな保護手法について検討することを次稿の課題としたい。

## 謝辞

課題へ参加する機会を頂いた重慶大学の周鉄軍教授、調査でお世話になった左照環氏、宜賓市住建局の譚敏総計画士、農村処の陳茂処長、宜賓市翠屏区科技局の鄧利輝局長、宜賓市翠屏区住建局の高楓局長、李庄鎮の錢鋒鎮長と鎮政府の役員方、本稿作成にあたってご協力いただいた神戸大学大学院工学研究科建築学専攻の山口秀文助教、川口麻子さん（現名古屋市役所）、比奈本洋太君（神戸大学大学院生）にもあわせて謝意を表する次第です。

## 参考文献

- 馮旭・山崎寿一：中国における「歴史文化名鎮名村」保護制度の展開とモデル計画事例に関する考察－1980年以降の「面」的保護に着目して、日本建築学会計画系論文集，No. 684，pp. 373-382，2013. 2
- 重慶大学（元重慶建築大学）都市規劃設計研究院：宜賓歴史文化名城保護規劃（宜賓歴史文化名城保護計画），1994. 7

- 広東省城郷規劃設計院・宜賓市城郷規劃勘察設計院：宜賓歴史文化名城保護規劃（宜賓歴史文化名城保護計画），2008. 4
- 同濟大学国家歴史文化名城研究センター・上海同濟城市規劃設計研究院・李庄镇人民政府：四川李庄歴史文化名鎮保護規劃（四川省李庄歴史文化名鎮保護計画），2005. 6
- 干莉・黄宏智：歴史城鎮風貌保護中の更新要素選択と更新策略—以四川李庄古鎮風貌保護整治為例（歴史文化村鎮の保護に着目した空間要素の選択と更新—李庄鎮の保護を例に），IDEAL 理想空間，No. 41，pp. 58-62，2010. 10
- 宜賓市委市政府：2011年度宜賓市政府工作報告（2011年度の宜賓市政府業務報告），2012. 1
- 山崎寿一・馮旭：生活地名による集落空間の分析手法—雲南省西双版纳タイ族集落・曼海を例に一，日本建築学会計画系論文集，No. 666，pp. 1415-1422，2011. 8
- 宜賓市人民政府・北京市気候局計画所：宜賓市城市總体規劃（宜賓市都市計画、1997－2020），1997
- 國務院法制辦農業資源環保法制司，住房与城郷建設部法規司，城郷規劃司：歴史文化名城名鎮名村保護條例釈義（歴史文化名城・名鎮名村の保護條例に関する説明），知識産權出版社，2009
- 宜賓市翠屏区李庄镇人民政府：李庄鎮誌，方誌出版社，2009. 8
- 左照環：李庄古鎮，宜新出内（2007）93号，2007. 10
- 馮旭，川口麻子，山崎寿一：生活地名から見る李庄鎮の伝統的な空間構造：中国歴史文化名鎮・李庄鎮における保護計画に関する研究 その2、日本建築学会近畿支部研究報告集，計画系（52），pp. 321-324，2012. 5

## 注

- 注1）中国西南地方は、四川省、雲南省、貴州省、重慶市の4つの省（直轄市）から構成されている。この地域は複雑な山岳地帯であり、中国の主要な河川が多く流れており、少数民族居住区も多いため、地理・歴史・人文などが他の地方とは大きく異なっている。更に、経済発展、都市化が東部では遅れているため、歴史文化遺産の破壊程度が低く、保護事業の展開も遅いという特徴が考えられる。
- 注2）明末清初時期（17世紀前半）、100年間にわたって相次ぐ4回の大規模の戦乱に遭った四川省のほとんどが壊滅され、全省の人口は1000万人から60万人に減少した。重要な地理的位置を占め、農業大省である四川省の復興を目指し、清政府が一連の（四川への）移民政策を制定した。これを背景に、中国の近代史では最も有名であり、現在でも影響が続いている移民運動が展開し、康熙半ば（1670年代）から乾隆半ば（1770年）まで、約1世紀にわたって続けられた。四川省に近く、便利な水路交通で繋がった湖広行省（今の湖北省と湖南省を主とした行政区分）からの移民が多かったため、「湖広填四川」（湖広の住民が四川に詰める移民運動）と呼ばれている。李庄鎮が位置する四川省に現存している歴史的都市・村鎮の大部分はこの移民運動で形成してきたものであると考えられる。
- 注3）文物保護単位は移動できない文物に対して中国が認定する最高の保護レベルであり、各級の地方政府が法に基づいて確定する重要な価値を持つ地面、地下文物の総称であり、国家級・省級・市級の3つの級別がある。
- 注4）葉華・浅野聡・戸沼幸市：中国における歴史的環境保全のための歴史文化名城保護制度に関する研究—名城保護制度の枠組みの整備過程の特徴と課題，日本建築学会計画系論文集，No. 494，pp. 195-203，1997. 4
- 注5）1996年安徽省黄山市で開催された「歴史文化街区保護（国際）研討会」（街区保護国際セミナー）では、歴史文化街区制度が確立された。
- 注6）重慶大学周鉄軍研究室が行った予備調査で西南地方の省（市）の住建局の担当者に対するヒアリング調査を行った。この時に、第1回、第2回の指定された17の西南地方における国家級名鎮名村の中で、14の名鎮名村は街区保護手法を用いて名鎮名村保護計画を策定している。四川省平楽鎮、莫洛村、雲南省白霧村の3つの名鎮名村は、文物保護単位をめぐって形成してきた村鎮であるため、文物保護単位を中心に保護計画を策定したことが分かった。
- 注7）「中華人民共和國文物保護法」（2002）に、文物保護単位の保護方法と要求が規定されている。
- 注8）李庄鎮を構成する建物・土地利用の現況調査を行うとともに建物・土地の呼称（生活地名）とその成立要因、使われ方の変容、建物の建設期と現在の状況等を郷土誌研究者や行政、住民からヒアリングし、地図に書き込む調査を行った。調査結果から李庄鎮の空間構造を図化し、歴史的・文化的価値のある建物・場所の評価を行った。この点については参考文献12)参照。

（2012年12月10日原稿受理，2013年9月11日採用決定）